

## 本町に新名所 がオープン



9月18日、本町5丁目に「関の刃物工房」がオープンしました。これは関商工会議所が中心市街地の活性化と地場産業の振興を目的として、岐阜県関刃物産業連合会と協力して空き店舗を利用して

開設したものです。工房では刃物職人による製造の実演や体験などが行われるほか、家庭用刃物などの販売も行われます。刃物のまち関市の新たな名所の誕生に期待が高まります。

# あんな事、こんな事



## 月下でフラメンコの舞い

9月13日、市役所市民広場において「名月と萩の夕べ」が開かれ、多くの市民が秋の夜長を楽しみました。ステージでソプラノ・ピアノコンサートやフラメンコが披露されたほか、浴衣姿に身を包んだ在住外国人によるお茶席も行われました。会場内にはあんどんが置かれ幻想的な雰囲気の中、時折、雲間から美しい月が姿を見せました。

## ぜんそく封じの

ぜんそく封じの加持祈祷として知られる「へちま加持」が14日、関善光寺で行われました。朝早くから家族連れやお年寄りらが同寺を訪れ、ぜんそく封じの祈祷をしました。読経の後、参拝者にはへちまとお守りが渡され、ご飯とへちま入りの味噌汁が振る舞われ、これを食べて早く治ると健康を祈る姿も見られました。





## 子どもたちの遊びの場を

旭ヶ丘小学校の放課後ふれあいクラブで児童28人が、鮎とカワセミの木彫りなどに挑戦しました。ふれあいクラブは子どもたちの居場所づくりのために地域の大人が企画、運営している事業で、切り出しナイフや彫刻刀、ハサミでクラフト作りに挑戦。なれない手つきでしたが、子どもたちの真剣に取り組む横顔がとても印象的でした。

## インド音楽の祭り

9月14日、洞戸基幹集落センターでインド音楽の祭り「サンギート・メーラ」が開かれ、約300人の観衆が古典音楽を堪能しました。イベントでは、日本やインドの演奏家や舞踊家が夜遅くまで楽曲や舞踊を披露。主催する宮下節雄さんは13年前に洞戸の川の美しさに魅せられ名古屋から移住しインド音楽の指導をしながらイベントを毎年開催しています。



## かわいい動物たちがやって来た

9月10日、富野保育園で同園児とやまゆり西保育園児のもとにかわいい動物たちがやって来ました。運動場に設置した広場に放されたポニー、ヤギ、ブタ、ウサギ、モルモット、ヒヨコ、陸ガメなどと触れ合い、園児たちは大騒ぎしながら動物に野菜をあげたり、ポニーの乗馬体験をしたりと、楽しい時間を過ごしました。

## 野球の楽しさを子どもたちに

9月13日、洞戸小学校で野球教室が行われました。指導にあたったのは県軟式野球連盟A級選抜リーグに所属している関市役所野球部で、なかには甲子園出場経験者や大学野球出身者もあり、小学2～6年生50人に基本を中心に指導をしました。子どもたちも大好きな野球がもっと上手になりたいと、熱心な様子でした。



## こぼれ話



今年度スタートした放課後子ども教室の旭ヶ丘小学校ふれあいクラブでは、関市の刃物を使って木彫りをしました。参加した子どもたちは、慣れない手つきで一生懸命に切り出しナイフや彫刻刀やハサミを使い、鮎のウッドカービング、カワセミのトールペイントボード、カワセミの紙クラフトを作っていました。

こうした事業は、地域の人たちが主体となり「体験」「交流」「遊び」を通した“子どもたちの居場所づくり”

として、市内6小学校区でスタートしています。コーディネーターの方は、家でゲームばかりしている子どもたちに、地域の人が色々な体験をさせてあげると意欲的で、参加した子どもたちもとても楽しそうでした。ボランティアで多くの方も参加されており、子どもたちも安心できる環境が整備できていると感心しました。

子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変わり、国が事業として地域の仕組みづくりを支援しなくてはならなくなった現実に、少し寂しさを感じました。